

■高橋至時(作左衛門) 天文学者。暦学御用になり「寛政暦」完成、伊能忠敬を指導し測量開始も、研究に没頭し過ぎ早世。  
たかはしよしとき  
加賀千代句集1764 = 大坂定番井上筑後守組同心高橋徳次郎の長男として生まれた。

田沼意次老中1772 = 8歳：  
大原騒動・・・1773 = 9歳：

船蝦夷来 1778 = 14歳：父の跡を継いだ。

天明大飢饉始1782 = 18歳：

田沼意次失脚1786 = 22歳：早くより算学、暦学を好んで、松岡能一に数理を学び、  
寛政改革始・・・1787 = 23歳：後々まで相ともに学び励まし合った間重富と相前後して麻田剛立の門に入る。  
至時は重富が取得して当時もっとも進んだ暦学書である「暦象考成後編」のケプラー楕円軌道論を研究し、  
剛立提唱の消長法を増補し、当代最高の暦学家と見られて、幕府要路の耳に達し、  
混浴禁止・・・1791 = 27歳：

松平定信引退1793 = 29歳：

写楽・・・1795 = 31歳：\*暦学御用のため出府を命ぜられ江戸浅草の暦局に入り、天文方に登用され新規に100俵五人扶持となる。  
ブートン来航・・・1796 = 32歳：伊能忠敬が入門。改暦御用をおおせつけられ、前任天文方の吉田秀升、山路徳風とともに上京、  
昌平覺始・・・1797 = 33歳：新暦法を完成。この暦法は、ともに出府した間重富の2人によってまとめられたもので、  
古事記伝・・・1798 = 34歳：\*施行され寛政暦と呼ばれた。この間、伊能忠敬を指導し、緯度1度の精度で全国測量すべく尽力、

伊能測量始・・・1800 = 36歳：幕府の許可が下り、伊能測量隊が調査を開始する。  
寛政暦の完成後は日月食の計算法、五星法(惑星の運動論)と里差(経度差)の研究に意を用い、里差については伊能忠敬の全国測量の発足、支援に尽力。

アメリカ船来航始1803 = 39歳：\*寛政暦では充されなかった惑星軌道の研究を深め「新修五星法」を脱稿した。フランス人J. ラランド著の「天文書」のオランダ訳本を若年寄堀田摂津守から貸与され一覽した至時は、これこそ長年求めていたものと、このラランド研究に寝食を忘れて没頭し、「ランデ暦書管見」を著わしたが、病身の命を縮め、  
バネ来航・・・1804 = 40歳：没した。